

令和7年度 南の星小学校 向上プラン



自己評価

説明責任

P(計画)

D(実施)

C(評価)

A(改善)

学び合う子

【児童の状況】
 ・授業の内容の十分な理解が難しい子がいる。
 ・自分の言葉で、思いを表現できない子がいる。
【達成目標】
 ◎「授業の内容がよく分かる」（4段階評価）と答える子どもが8割以上。
 ◎相手の思いや考えを理解しようと聴いたり、自分の思いや考えを適切な言葉で話したりすることができる。

【目標達成に向けての取り組み】
 ・「子供たちの心が動く」単元構想の工夫を図る。
 ・語彙力や読みの力を高めるために、低学年を中心にMIMを取り入れた学習を行う。
 ・児童の実態に即した、適切な指導を行うため、個別指導や取り出し指導などを充実させる。
 ・話し合い活動をより効果的にできるような場面を設定し、自分の思いや考えを、子供たちが話しやすい環境をつくる。また、心を耕す道徳教育の充実を図る。

【今年度の評価】
 ・学校評価にて「授業の内容がよく分かる」と回答した子供の割合は、7割8分だった。さらに、児童の評価と職員の評価に乖離が見られた。
 ・主に低学年でMIMを実施した結果、MIMの評価テストにおいて点数の伸びが見られた。
 ・取り出し指導を実施したことで、子供たちの学習について、理解が深まった。また、個別指導が必要な子供たちへの支援が充実した。
 ・話し合い活動を意図的に入れる授業研修を行い、協働的な学びが深まった。

【改善策】
 ・達成目標や評価基準を児童と共有し、見直しをもって学習に取り組ませる。
 ・MIMについては、引き続き低学年を中心に実施していく。また、取り出し指導の中で、MIMを実施し、結果を活用していく。
 ・子供の課題に合わせて、取り出し指導や個別指導を引き続き充実していく。
 ・協働的な学びを深めるため、話し合い活動を、単元の中に意図的に組み込んでいく。

素直な子 いじめ対策

【児童の状況】
 ・「学校生活が楽しい」と答える子は85%くらいである。気持ちのよい挨拶ができる子が多い。
 ・その場に応じていない言葉遣いをしたり、友達に気持ちを上手に伝えられなかったりして、トラブルになることがある。
【達成目標】(児童自己評価)
 ◎「気持ちの良い挨拶が進んでできる」 80%以上
 ◎「学校生活のルールやマナーを守っている」 80%以上
 ◎「学校が好きだ、楽しいと思う」 85%以上

【目標達成に向けての取り組み】
 ・あいさつや落ち着いた生活について、各クラスで子供たちと話し合いめあてを設定する。
 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」等、言葉づかいについて発達段階ごとに指導する。
 ・「かがやき賞」や帰りの会でお互いを認め合う活動を設定する。
 ・いじめ対策委員会で全職員のいじめに対する共通認識を高める。

【今年度の評価】
 ・「気持ちの良い挨拶が進んでできる」と答えた児童は、81%だった。
 ・「学校生活のルールやマナーを守っている」と答えた児童は、87%だった。
 ・「学校が好きだ、楽しいと思う」と答えた児童が、82%だった。

【改善策】
 ・達成できた項目については、今後も継続できるようにしていく。
 ・乱暴な言葉遣いをするなど、友達とトラブルになることがある。引き続き指導が必要。

負けない子

【児童の状況】
 ・新体力テストでは、全学年96項目中40項目(42%)が全国平均を上回った。R6(42%)R5(42%)R4(34%)
 ・学校管理下における事故発生数(事故報告書件数)→ R6(39),R5(46),R4(34),R3(25)
【達成目標】
 ◎ 新体力テストで、項目の半数以上を全国の平均記録を上回る。
 ◎ 校内廊下歩行などの指導を充実し、事故発生数を減少させる。

【目標達成に向けての取り組み】
 ・体力アップコンテストや持久走・縄跳びカードを通して運動に親しみやすい環境を作り、運動の日常化を図る。新体力テストを効果的に使い、目標記録をもってテストに臨ませる。
 ・「自分の命は自分で守る」という安全意識が高まるように、子どもの発達段階を踏まえながら、日常生活の中で、体験的・具体的指導を行う。(交通安全教室、防災訓練等)

【今年度の評価】
 ・なわとびカードや持久走カードの活用により、子供たちの意欲を高めることができた。
 ・体力テストの結果から、握力は全国平均を上回った。しかし、柔軟性・持久力・投力が低くなっている。
 ・校内の事故発生件数は28件と減少した。運動時のけがはあるが、トラブルや悪ふざけによるけがは大きく減ってきている。

【改善策】
 ・子供たちの意欲維持、向上のためのなわとびカードや持久走カードは次年度も継続して取り入れる。
 ・様々な運動能力向上のために、運動委員会主催の運動イベントを企画する。
 ・体育によるけがを少しでも減らすために、安全な運動の仕方を伝え、練習させる。
 ・こうするとこうなる、こうすれば大丈夫という危険回避の指導を日常的に行う。

助け合う子

【児童の状況】
 ・自分の気持ちを上手に伝えられなかったり、思いやりの心をもって接することができなかつたりして、トラブルにつながることもある。
 ・いろいろな活動に対して自ら取り組むことに消極的な子が多い。
【達成目標】
 ◎活動に主体的に取り組む。(個人)
 ◎相手を思いやり、互いに声を掛け合って活動する。(小集団)
 ◎互いのよさを生かし合いながら、力を合わせて取り組む。(集団)

【目標達成に向けての取り組み】
 ・思いやりの心を育てるために、1・6年のペア活動や幼稚園・浜松特別支援学校との交流活動を取り入れる。
 ・学級や学年で、グループ活動を意識的に取り入れ、かかわる場を多く設定する。
 ・学級活動や行事を通して、「主体性」や「かかわり合う力」、「チームワーク力」を育てる。

【今年度の評価】
 ・1・6年のペア活動や幼稚園・浜松特別支援学校との交流活動を通して、思いやりの心を育てることができた。
 ・学級活動や行事などを通して、「主体性」や「かかわり合う力」、「チームワーク力」を育てることができた。
 ・学級や学年でのグループ活動を計画的に設定することができなかった。

【改善策】
 ・学級や学年、学年団、ペア学年など、状況に応じて活動を取り入れる。学期ごとに計画を立て、かかわる場を意識して設定する。

学校関係者評価

・アンケートの結果において、「学習内容を理解している」の部分で児童と職員の間には差がみられた。そのため、児童と教員が評価基準を共有し、到達目標を明確化する必要がある。

改善策

・児童と評価基準を共有し、見直しをもって学習に取り組ませる。
 ・子供の実態に合った指導をし、学びの充実を努める。
 ・体力向上のため、目標をもって運動に取り組ませる。
 ・正しい言葉遣いや聞く態度を学級で指導する。